

めざす児童生徒像

学校スローガン 目指す児童像	【子どもが主役の学校】 【じ】自分で考え行動する	学校教育目標 【も】もっと良くなろうとする 【と】共に学ぶ 思いやる	仲間と共によりよい社会を切り拓く資質・能力の確実な育成
-------------------	-----------------------------	--	-----------------------------

※児童生徒結果-教員結果-保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
(学校で設定)	子どもが主体の学校	目指す学校・児童像	全項目80%以上達成	「子どもが主役」の学校づくりを目指し教育活動を行っている	100			「子どもが主役」の学校づくりについては、教職員アンケートの肯定的回答の割合が100%であった。しかし目指す児童像の項目のアンケート結果では、教職員、児童、保護者の肯定的回答の割合に差が見られ、「自分で考え行動している」「よりよくなろうと努力している」「お互いを大切にしながら活動しようとしている」では教職員・児童と比較して保護者の肯定的回答の割合が低く、「お互いを大切にしている」では教職員に対して児童・保護者の肯定的回答の割合が高くなっている。	子どもに委ね、子ども自身が自己調整しながら協働して学ぶことができる授業づくりや、子どもが考えて行動する場を意識した行事計画等、「子どもが主役」という軸を大切に、あらゆる教育活動において子どもが主語となっているか共通理解を図りながら取組を進めていく。
				【じ】児童は、自分で考え行動している。	100	95	86.5		
				【も】児童は、よりよくなろうと努力している。	92.9	95	85.7		
				【と】児童は、お互いの考えや思いを大切にしながら活動しようとしている。	85.7	92.9	94.6		

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
重点項目	働き方や業務の改善	全項目80%以上達成	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	78.6			組織での役割の明確化と各自の創意工夫、職員が気軽に相談できる職場環境については、教職員アンケートの回答の肯定的割合は高かった。時間外勤務の削減については、ワークライフバランスが整っていると回答した割合が高い一方で、時間外勤務削減を実感している割合は低かった。協力し工夫して業務にあたることはできているものの、さらに業務改善を進めていく必要がある。	引き続き業務改善の視点から校務を見直し、削減できるもの・ICTの活用等により時間・労力をカットできることなど検討していく。 お互いに相談しやすい人間関係や職場の雰囲気を生かして、教職員一人一人の実態やニーズを把握しながら、業務改善を進めていく。	
			② 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができる。	92.9					
			③ 気軽に相談できる環境が整っている。	100					
			④ ワークライフバランスが整っていると実感している。	92.9					

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
小松市共通重点項目	学校研究	各項目80%以上	① 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元(授業)構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。	100			①目指す授業スタイルと単元構想シートの共有・共通実践については、②の授業研究への主体的取組は達成の割合がともに100%であった。月に1回授業づくり研修会を開き、全員で授業者の授業づくりに参加することで活発な意見交流ができていたことが結果に表れていると考える。③の児童が学びを進めるための工夫については、教員は91.7%であった。③の項目を授業の中に取り入れることを意識し、授業を構想していることの表れととらえている。	2学期の授業研究をさらに充実させていくために、目指す子どもの姿、つきたい力を明確にして授業展開を組み立てていくことを続けていく。単元構想シートについては、日々の実践に生かせるようにしていく。③の項目について児童がより自分で学びを進めると実感できるように声掛けをしたり手立てを考えたりしていきたい。	
			② 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。	100					
			③ 児童が学習形態を判断・選択し、自己調整しながら学びを進めるための工夫をしている。	91.7	87.2				
	指導力の向上	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	①②⑤の項目で80%以上	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	91.7	92.9		①の自ら考え取り組む姿勢②話し合う活動と⑤のふり返りについては、おおむね80%以上の達成の割合であるが、②の教員アンケートは66.7%と児童との間に大きな差があった。教職員がより高い姿を目指し、低い達成の割合になっていると考えられるが、考えが伝わる話し方の工夫や、自分の考えと比べ再構築する場の持ち方など教師の手立てもより工夫していく必要がある。⑤のふり返りでは、全校で共通のふり返りの方法を提示したことで意識が高まったと考えられる。	教員と児童の意識の差が大きかった②③④から、話し方や聴き方に課題があると感じられる。今年から朝のさわやかタイムに対話トレーニングの時間を設けているが、グループによって話し合いの活発さに大きな差があるのが現状である。そのため、対話のモデルとなるものを全校に示すことで、共通理解を図りながら取り組んでいく。対話トレーニングの積み重ねにより、授業での対話による考えの深まりや広がりを見せている。学級活動においても全校で進め方を共有したので、それを活用して話し合い活動を活発化させていきたい。
				② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。	66.7	87.9			
				③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	41.7	87.9			
				④ 児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えを伝えている。	66.7	85.1			
				⑤ 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	100	87.2			
				⑥ 児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。	91.7	89.4			
	学力の向上	カリキュラム・マネジメント	①～③の項目が80%以上	① 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。	90.9			①②③の項目で、目標指標の80%に達している。カリキュラムマップや学校力向上ロードマップの活用目的や学力向上の取組の目的や意義を、職員で共有して進められている。	②の教育課程の編成・実施のPDCAサイクルをさらに確立していくために、1学期の成果と課題を受けて修正しながら教育活動を進めていきたい。学力向上の取組についても、重点課題の成果や課題をもとにして、共通の取組として進めていく。 ④の小中連携については、小中連携の各部会での情報を校内で周知していく。
				② 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。	81.8				
				③ 全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。	100.0				
				④ 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。(小中連携)	70.0				
家庭学習	①②ともに80%以上		① 家庭学習の取組として、学習方法や課題の課し方等を校内で共通理解を図っている。	100	77	68.9	①の家庭学習の取組について、教員と児童、保護者の間に差が見られる。家庭学習強化週間の取組や結果を保護者に伝え、共有する必要がある。 ②の学習用端末の家庭での活用が70%と目標指標に達しなかった。学年によって取組状況に差が見られた。 ①については、家庭学習強化週間の取組や結果をメール配信にて保護者に周知し、協力を得られるようにする。3・4年生は「取り組む時間」、5・6年生は「取り組む時間や内容」について具体的なめあてをもたせて計画的に取り組ませることや、めあてに沿って振り返ることにより、自己調整しながら学ぶことができるようにする。それを積み重ねることによって、自律した学び手として自ら力をのばすことができるようにしていく。 ②の学習用端末の家庭での活用については、AIドリル以外の課題の出し方について、学年間で交流し課題の出し方を工夫することで、児童が学習用端末を活用しているという実感が持てるようになる。		
			② 学習用端末を活用した家庭学習に取り組めるよう課題を工夫している。	70	58.9				

令和6年度小松市立荒屋小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	<p>〈生徒指導の4つの視点を生かした学校づくりを通して、「自己指導能力」を育む〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活目標と道徳、特別活動等で系統的な指導をする。 ・生徒指導の4つの視点を教職員が共通理解、共通実践を行えるよう、チェック表で毎月ふり返る。 ・どの項目も80%以上になるよう、意識できるよう伝達する。 ・生活目標や道徳で学んだ価値のよさを実感できるようにするために、諸問題が起きた時に、生活目標に関連させて指導するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケートの「生活目標と道徳、特別活動等で系統的な指導をする」の設問では、肯定的な回答の割合が100%であった。2学期も引き続き、共通理解・共通実践を進めていきたい。 ・生徒指導の4つの視点の振り返りを毎月行った。「承認や賞賛、励まし」と「教師との信頼関係を深めた」の項目が、1学期を通して80%以上の達成率であった。振り返りからの課題を周知することが遅れてしまうことが原因と考える。 	
特別支援教育	<p>〈児童の生活の様子や学習状況等の情報交換と個に応じた適切な支援〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気づき票により支援が必要な児童を把握し、校内委員会で支援の仕方を協議し、共通理解をする。 ・学習支援が必要な児童を把握し、特別支援教育支援員や通級教室と協力し、可能な限り必要な支援が行き届くようにする。 ・情報交流を密にし、必要な場合は校内委員会を開催したり専門相談につなげたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気づき票を書くことで、支援が必要であったり、今後支援が必要になりそうだったりする児童を把握することができた。点数の高かった児童については、校内委員会を開催し、具体的な支援策を話し合った。支援策をどのように全体で共通理解するか今後検討したい。 ・学習支援を必要としている児童に支援ができるよう配置していったが、支援員は足りない状態である。通級教室の利用は増えている。 ・情報交流に関する教職員アンケートの結果の肯定的割合が100%であった。実際に校内委員会を開き、専門相談につなげ、支援の助言をおおぐことができた。 	
道徳教育	<p>〈道徳性の涵養〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校重点指導内容をA主として自分自身に関する「希望と勇気、努力と強い意志」に設定する。日常的に学校生活の様々な場面でも取り上げて指導する。 ・保護者に道徳の授業を公開したり、保護者と児童が道徳の内容について共に考える機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教育課程で、学校重点指導内容を意識しながら、職員で共通理解のもと進めることができた。2学期も全職員で足並みをそろえて日常的に学校生活の様々な場面で取り上げて指導する。 ・保護者に道徳の授業の学びを知ってもらうための道徳ノートの持ち帰り週間を設定した。保護者と児童が道徳の内容について共に考える機会となった。 	
読書教育	<p>〈読書の質的な向上〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用計画に基づいて各教科での調べ学習や並行読書として図書を活用し、様々な分類の本に親しむ機会を設定する。 ・「読書祭り」や「家庭読書」等、休み時間や家庭でも読書に親しめるような機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年、国語や社会、総合的な学習の時間に並行読書として図書を活用しているが、より活用率を上げ読書の質や量を向上するために図書館利用計画を定期的に回覧し授業での活用を呼び掛ける。また、成果物が見られるように展示や掲示を行う。 ・1学期の読書祭りは図書委員が中心となって2つの企画を行った。喜んで参加している児童はいるが参加率が高くはない。企画するだけでなく企画を盛り上げるための工夫も必要である。 ・熱中症対策として図書ボランティアによる休み時間の読み聞かせを何度か行った。毎回児童が楽しみに参加していた。児童が本に親しむ機会にもなり、よかった。 	
キャリア教育	<p>〈学校行事、学習活動と関連したキャリア教育の推進〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、特別活動、総合的な学習の時間、生活科を軸として年間計画に沿って実施する。 ・行事や取組について、各学年や個々の実態に応じて「今よりも少し高く」を意識した目標をもたせる。めあてに対するふりかえりを活動後に確実に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケートの「学校行事、学習活動と関連したキャリア教育の推進について」の設問の肯定的な回答の割合は70%であった。行事や取組について、児童の実態に応じて目標をもたせて取り組ませることはできているので、行事のふり返り等、めあてに沿って書かれているものや成長を感じられるものを掲示し、全校での認め合いの場として広めていけるようにする。 	
保健安全教育	<p>〈自ら考え、健康で安全な行動をとろうとする態度の育成〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの実態を踏まえた内容を学校保健委員会のテーマに設定し、児童自身が自分の健康について考え、改善していけるように活動を進めていく。 ・避難訓練3回（火災・地震・不審者）を行う。 ・集団下校訓練、交通安全教室を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・育友会と連携し、話し合いや保護者アンケートを行い、学校保健委員会の発表準備を進めることができた。9月に保健・給食委員会の子どもたちと自分の健康について考える話し合いなどを行い、学校保健委員会に向けての準備を進めていきたい。 ・5月に火災、7月に不審者対応の避難訓練を行った。2学期は地震の避難訓練、引き渡し訓練を行う予定で準備を進めていく。 ・集団下校訓練を行い、下校時の危険箇所などを確認できた。交通安全教室では、自分の命を守る約束やルールについて学ぶことができた。 	
情報教育	<p>〈児童・教師がICTを活用する力の育成〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一台端末の授業や家庭学習での有効活用を図ることで、発達段階に応じて学びの質を向上させる。 ・個別最適な学びの達成を目指し、自ら学習計画を立てたり思考を積み上げたりできるよう、児童・教師共に授業での日常的な活用を積み重ねる。 ・研修会を通して教師のICT活用指導能力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習で学習用端末を有効活用しているかどうかというアンケート項目に対して、児童と教職員の回答に大きな差があり児童の意識としては活用できていないと感じていることがわかった。授業では、思考ツールとして文章の組み立てやパワーポイントによる協働的な活動等でICT機器を活用してきた。今後も、家庭学習での有効活用と思考ツールとしての活用のいずれについても校内研修会を行い実践交流をしたり、ICTサポーターと連携したりすることで具体的な活用方法を探っていきたい。 	
家庭・地域との連携	<p>〈家庭・地域とともに進める学校づくり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校からの情報発信システムを工夫・活用し、スムーズに教育活動についての共有を図る。 ・校区の健全育成会議を中心にして、地域の諸団体・組織と連携を図り、教育活動に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種より・通知等の発信方法を、保護者に早く確実に伝わることや児童への直接指導の必要性など、目的に応じて定め、特にメール配信を活用することで、スムーズに保護者や地域に学校からの情報が伝わるように整備を進めた。併せて学校ホームページもリニューアルし、学校教育活動についてより広く情報発信することができるようにした。 ・板津地区健全育成会議の取組として、健全育成ポスター・標語コンクールに全校で取り組んだ。 ・これまで長年行われてきた「八丁川ウォーク」については見直しを図り、カリキュラムマネジメントの観点から、八丁川ウォークの目標と教科の目標をリンクさせ、加えてより多くの児童が参加できるように低学年の授業として行うこととした。 	

学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の学校生活に慣れ、楽しんで学校に行くことができているようでよかった。 ・友達といっしょに活動したり交流することができるようになってきている。 ・メディア（ゲームやインターネット）に接する時間が多く、生活リズムが崩れることに影響している。 ・自主的に家庭学習に取り組もうとする姿勢がやや弱く、集中して学習に取り組むことや時間等計画を立てて学習に取り組むことに課題がみられる。
---------	---